

新人紹介

よろしくおねがいしま～す



写真左から 岩本, 柳川, 中森

新任あいさつ（1）

研究員 岩本 有司

学生の頃は、スズキという魚の稚魚（生まれたばかりの魚の子供）の生態に興味を持ち、広島市内を流れる太田川の下流域や広島湾に点在する砂浜海岸などで網を曳き、魚を採集するといった調査を行っていました。四季折々に違った表情を見せる広島のを肌で感じ、そこから様々なことを学びながら過ごしてきました。

私が初めて水産海洋技術センターと出会ったのは、当時の指導教官に連れられて、センターの定例研究会に参加させていただいた時でした。その時に研究員の方々のプレゼンテーションを聴かせていただき、「いつか自分もここで仕事がしたい。」という思いが高まったことを今でもよく覚えています。今年度より新規採用として本センターに配属されることになり、学生の頃の願いが叶って嬉しい気持ちと同時に、これからは県職員の一員として本県の水産業に貢献できるよう日々研鑽を積み重ねなければ、と気持ちを引き締めています。

現在の私の主な業務は、ウマヅラハギの種苗生産と飼育技術の開発で、この業務を通じて、種苗生産に関するさまざまな知識と技術を習得することを自身の目標としています。配属後すぐにウマヅラハギの産卵シーズンが始まったので、4月末から6月の約2ヶ月間は、卵の取り上げ作業や卵の良し悪しを判定するための基礎的な試験を行いました。孵化した時には2mm程しかなかったウマヅラハギも、現在は1cm程度にまで成長し、早くも親そっくりのウマヅラ顔になっているものも現れています。

私も、すくすくと成長するウマヅラハギの子供たちに負けないよう、一日も早く本県の水産業に貢献できる職員となれるよう、頑張っけてゆきたいと思っています。よろしくお願いたします。

新任あいさつ（2）

研究員 中森 三智

私が水産という世界に興味を持ったのは、性転換をする魚がいるということを知った時でした。なぜオスだった魚がメスになるのか。どうやっになるのか…。そのメカニズムを知りたいという思だけで、長崎大学の水産学部に進学しました。魚類の性転換に関してはまだ解明されていないことが多く、解らないこともたくさんありましたが、大学では水産のことに関して幅広く学ぶことができました。また、部活動としてカッター部という舟を漕ぐ体育会系のクラブに所属し、雨の日も、風の日も、雪の日も毎日海の上で過ごしました。その成果もあっけてか心身ともに鍛えられ、立派な海乙女になることができました。

長崎で大学時代の4年間を過ごした私ですが、将来的にはやはり地元である広島に帰る、広島のために働きたいという希望を持っていました。そのためこの度、その希望を叶えることができ、この水産海洋技術センターで働けることは大変嬉しく感じています。

現在の私の主な業務は、かきの鮮度保持技術の開発や試験用のかきの幼生飼育などを行うことです。かきは広島県の水産業の中心的なもので、とても重要なものです。そのかきに関する研究に携わることができ、とてもやりがいを感じています。他にも月に1度調査船に乗り、海洋観測にも行っています。すでに4回ほど乗船する機会がありましたが、3回は大雨に見舞われました。私が乗ったからではありません…。

まだまだ学ぶべきことはたくさんありますが、いつか自分が研究開発した技術が当たり前のように使われる日が来ることを夢みながら、頑張っけていききたいと思っけています。どうぞよろしくお願いたします。